

第2回クラーククラブ演奏会

開催日	平成08年10月19日(土)	会場	品川きゅりあん大ホール	開場	午後2時30分	開演	午後3時
-----	----------------	----	-------------	----	---------	----	------

プログラム

I メンデルスゾーン・シューベルト男声合唱曲集

- | | | |
|----------------------------|-----------------|------------------|
| 1. Trinklied | 作詞 J.W.v.Goethe | 作曲 F.Mendelssohn |
| 2. Türkisches Schenkenlied | 〃 J.W.v.Goethe | 〃 F.Mendelssohn |
| 3. Der Gondelfahrer | 〃 Joh.Mayrhofer | 〃 F.Schubert |
| 4. Die Nachtigall | 〃 J.K.Unger | 〃 F.Schubert |

指揮:伊藤 一男
伴奏:越田 美和

II 草野 心平作詞 多田 武彦作曲 男声合唱組曲「北斗の海」

- Bering-Fantasy
- 窓
- 風景
- 海
- エリモ岬

指揮:一入 章夫

〈指揮者、一入 章夫の横顔〉

彼との出会いはかれこれ13年前に遡る。面倒見の良い方で、何度も助けてもらった。筆者が車の免許を取って直ぐに実地運転をしたのも彼の車であった。当然のごとく街路樹に激突して回ましてしまったが、何にも言われなかった。交通違反で警察署に連行された時に、署まで迎えにきてくれたのも彼だった。そう、彼は私にとって学生時代の光栄であった。第2回目の演奏会を迎えられたのも、彼の面倒見の良さがあつてである。指揮から事務作業に至るまで一手に引き受けて、もう、その凄さには頭が下がります。そんな彼が本日指揮する曲は北海道にちなんだ海です。ほら、エリモ岬の灯台が見えるでしょう。(伊藤一男)

(休 憩)

III 愛唱歌ステージ

第一部 ふるさとへの回帰

- | | | | |
|----------|--------------|----------|----------|
| 1. 柳川 | (「柳川風俗詩」より) | 作詞 北原 白秋 | 作曲 多田 武彦 |
| 2. 追分 | (「三つの俗歌」より) | 作詞 北原 白秋 | 作曲 清水 脩 |
| 3. 秋のピエロ | (「月光とピエロ」より) | 作詞 堀口 大学 | 作曲 清水 脩 |
| 4. 婆やのお家 | | 作詞 林 柳波 | 作曲 本居 長世 |

指揮:高橋 政雄

第二部 ご一緒に歌いませんか?

遥かな友に
線路は続くよどこまでも

作詞・作曲 磯部 俣
アメリカ民謡

第三部 世界をちょっと一巡り

- | | | | |
|-------------------------|---------|----------|-----------|
| 5. Kyrie Eleison | (典礼曲) | 作曲 デュオウパ | 編曲 林 雄一郎 |
| 6. Volgaの舟歌 | (ロシア民謡) | 〃 不明 | |
| 7. Soon' a Will Be Done | (黒人霊歌) | 〃 不明 | 編曲 福永 陽一郎 |

指揮:伊藤 一男

MEMBER

★TOP

首藤 栄三 (医27)
堤 敏男 (医27)
山口 蒔 (法30)
渡部 敏彦 (経32)
佐藤 清一 (農33)
三河 勝彦 (農33)
藤田 実 (理35)
小亀 慶曙 (経37)
高橋 謙二 (工44)
安納 一郎 (工45)
中原 良彦 (工54)
本間 泰 (法55)
樋坂 章博 (薬56)
米山 正寛 (農57)
一入 章夫 (農59)
柴田 成裕 (法61)
平田 真一 (理02)

★SECOND

清水 富雄 (経32)
佐藤 昭男 (経33)
千成 睦夫 (工34)
越田 和弘 (工35)
井山 嗣夫 (法36)
御厩 元宣 (経41)
井上 勝 (工42)
誉田 晴夫 (薬46)
鈴川 光義 (水48)
竹村 圭介 (工62)
片桐 保昭 (水02)
西野 政邦 (工03)
青山 康治 (工04)

★BARITONE

千葉 裕 (工28)
越後 明 (農34)
赤羽 仁 (教39)
尾寄 耕策 (工40)
佐藤 稔 (工41)
金 武彦 (法41)
古田 真 (理45)
今井 俊博 (薬45)
伊原 均 (法48)
金森 由樹 (農50)
中嶋 輝夫 (農51)
児玉 健志 (理54)
伊藤 一男 (工63)
西田 好毅 (工63)
土居 信英 (理02)
土井 徹 (文02)
大丸 成一 (工02)
水戸 文彦 (法03)

★BASS

遠藤 良治 (理28)
新井 進 (医32)
高橋 政雄 (農31)
伊藤 治男 (文33)
中島 庸介 (理34)
大槻 邁 (理35)
景浦 敬 (工38)
片岡 義彦 (工39)
林 雄嗣 (工39)
若原 弘道 (経39)
八島 哲郎 (理39)
宮沢 節生 (法45)
佐藤 彰 (教63)
早川 淳一 (理63)
小玉 有三 (理03)
藤沢 英夫 (理03)

★クラーククラブ運営委員会

統括:高橋 政雄
技術:伊藤 一男、一入 章夫
委員:渡部 敏彦、大槻 邁、林 雄嗣
井上 勝、竹村 圭介、早川 淳一
平田 真一、西野 政邦
司会:佐藤 昭男
デザイン:加藤 善朗(水63)
印刷 桑島印刷所

★東京OB会 幹事会

会長: 遠藤 良治
幹事長: 高橋 政雄
副幹事長: 赤羽 仁
幹事: 御厩 元宣、井上 勝
伊原 均、一入 章夫
竹村 圭介、伊藤 一男

〈指揮者、伊藤 一男の横顔〉

発音やフレーズを「こんな風にやって」と即座に美声で実演して見せられる指揮者はそうはいまい。彼の技量の秘密はことによく鳴る頭蓋骨と胸部にある。美しい音楽は物事の背景にある真理を説いている、と古人は考えた。無情の世にあつて真理は永遠である故、美声もまた永遠である。そこから人は歌う骸骨の話を創出し、語り伝えてきた。死して肉体は朽ち果てても、唇と舌は残って歌を歌う。人種と地域を選ばず、そんな想像上の被創造物が93例も報告されている。

さて、伝説の学生指揮者はクラーククラブの指揮者として復活した。あと50年は頑張れるとしてその後、あの立派な頭骨を持った骸骨が大小さまざまな骸骨を従え(天上の音楽)を謳歌する。そんなあの世を夢想して、つい今から往く気になる。クラークの旗揚げ公演の際、彼は前日の夜に出張先の台湾から戻り、タクトを振った。その多忙さは2年を経ても変わらない。明日は妹の結婚式、実家の福島に帰る。(加藤善朗)

プログラム: ご挨拶

北大合唱団東京OB会会長 遠藤 良治